

北中城村大城「大城花咲爺会」

集落
部門

夢のあるふるさとづくり (平成14年度認定)



大城集落は中城城跡に最も近くて、国指定重要文化財「仲村家住宅」があり人口390人の小さな規模で、歴史の香りと自然景観に恵まれた集落である。

地域の住民が昭和62年頃から意識的に景観作りを行うようになり、平成6年に行政へ働きかけて古城周辺歴史的景観整備事業に着手し集落内にあるいくつかの協同井戸をミニ公園として整備した。

集落に住む人々が景観の美化、自然環境の保全に関心をもつようになり、平成11年に村と「古城周辺景観協定」が締結された。これは、強制力はないが地域住民の景観づくりに対する思いが目に見える形で現されるようになり、生垣を作り、ブロック塀の緑化、建築物の高さの制限、赤瓦屋根の奨励など積極的な試みがなされている。

地域住民が中心になり景観形成を推進してきた中で中心的な役割を果たしたのが地域の中老年の住民である。もともと花や緑に親しむ人が多く、数戸の花栽培農家もあり住民の協同作業として美化運動が取り組まれていたが、作業を重ねていく中で集落内の住民のためだけでなくこの地を訪れる人々のために、来訪者が楽しく散策ができるような地域づくりに取り組んでみようとする中老年の住民で組織する「大城花咲爺会」を結成した。

景観形成を目的とした核となる組織ができたため老人から子どもまで、住民のまとまりがより一層深くなり、地域づくりの構想が次々と提案されるようになった。

